

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	梶原 浩 介	職名	講 師	学位	博 士(社会福祉学)(熊本学園大学 2017年)
----	--------	----	-----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社 会 福 祉 学	精神保健福祉、障害者福祉(発達障害)、子ども家庭福祉、ソーシャルワーク

研 究 課 題
<p>地域で生活する家族が抱える生活課題(不登校・ひきこもり、子育て、虐待、介護、精神疾患など)に各当事者(家族1人ひとり、家族、地域の支援機関・施設の支援者等)に取り組む上で生じる語りを対象として、主に質的研究・量的研究の方法を用いて社会問題の現状と課題を明らかにするとともに、ソーシャルワーカーとして各当事者に対する支援に求められる知識・技術について明らかにすることを目指している。特に、家族が抱える生活課題の現状及び傾向、家族支援における視点、援助技術の生成などについて社会福祉学の観点により研究している。</p>

担 当 授 業 科 目
<p>保健福祉学入門 (1年次前期) ソーシャルワーク演習 (1年次後期) 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ (2年次前期) 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ (2年次後期) 精神保健福祉制度論 (2年次後期) ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ (2年次前期) ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ (2年次後期) 健康相談(看護学科科目) (3年次前期) 相談援助演習Ⅳ (3年次前期) 相談援助演習Ⅴ (3年次後期) 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ (3年次通年) 精神保健福祉援助実習Ⅰ (3年次通年) 専門研究Ⅰ (3年次通年) 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (4年次通年) 精神保健福祉援助演習Ⅲ (4年次後期) 国家試験対策(地域福祉論を担当) (4年次後期) 精神保健福祉援助実習Ⅱ (4年次通年) 専門研究Ⅱ (4年次通年)</p>

<p>授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)</p>
<p>授業科目名【保健福祉学入門】</p> <p>本科目は看護学科、福祉学科、栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性を理解するために本学教員の学問領域にふれ、多職種協働の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題の認識を深めていくものである。そのうち福祉学科教員として、福祉の実践現場でおこなわれる支援者間の協働の事例をもとに福祉専門職の価値・専門性について学生の理解を促した。</p>
<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習】</p> <p>近年の社会福祉に関する問題を取り上げ、その事例を基にグループワークを通して他者と意見を共有しながら、自分なりの理解を深めていく機会をできるだけ確保した。学生同士の振り返りを通して、個別の内容をグループ全体に共有することにより、学生自身の気づきを共有できる時間を設けた。福祉的課題・問題の理解に</p>

<p>については、主に複合課題を抱える家族の問題を事例として取り上げ、自己覚知・他者理解の促し、支援者に求められる基本的なコミュニケーション技術等について学生同士の関わりを生かして理解を深めた。</p>
<p>授業科目名【地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>地域福祉を捉える視点を学ぶとともに、地域福祉の主体や地域福祉の推進のための制度・仕組みについて理解することを目指した。前期は、地域福祉の概念、行政システム、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、福祉教育、コミュニティワーク等を中心に指導に従事した。後期は、コミュニティソーシャルワーク、事例教材等を基にした地域福祉の実際について触れ、地域福祉の推進の在り方について指導に従事した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉制度論】</p> <p>メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者など)を取り巻く法制度の詳細についての理解を深めるとともに、相談援助活動を展開する精神保健福祉士の役割について捉えることを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって、学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。</p>
<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ、相談援助演習Ⅳ・Ⅴ】</p> <p>本科目は、社会福祉士指定科目の1つである。講義では、複合課題を抱える家族への支援事例を用いて、ケースワークの展開プロセス、アセスメント技法、地域組織化活動の手法等について教授した。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士、様々な視点から事例検討が進められるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【健康相談】</p> <p>本科目は、看護学科のうち養護教諭を目指す学生を対象に、福祉専門職の立場により、学校に通う児童生徒が抱える問題(不登校・虐待・貧困など)の現状と課題、家族支援の在り方、校内での支援体制の構築、養護教諭として地域の支援機関との連携・協働の在り方について指導に従事した。文部科学省の資料の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】</p> <p>福祉学科3年生を対象にした実習科目。精神科医療機関への実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p> <p>本科目では、ゼミ全体で研究テーマを設定した後、各人が個別の課題について自己学習を行った。学生指導においては、できる限り各人が研究への関心を高め、意欲的に学習に取り組めるよう努めた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】</p> <p>福祉学科4年生を対象にした実習科目。3年次の医療機関の実習を踏まえて、更なるステップアップを目指していけるよう、4年次の地域実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。そして、実習後は報告会を通して、学生自身が実習中の学びを、より実践的な理解として深めた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】</p> <p>精神保健福祉士として現場実践を行う際に、求められる知識・技術の習得を目指し、演習プログラムを通して指導に従事した。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて解説を行い、理解を深めさせた。4年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【国家試験対策(地域福祉論を担当)】</p> <p>本科目は、4年次の社会福祉士国家試験の受験を目指す学生を対象に指導に従事した。講義では、地域福祉論を担当し、国家試験で出題が予想される制度改正や学生の理解度が十分でないと思われる内容を中心に教授した。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅱ】</p> <p>本科目では、各人が研究テーマ・課題を設定し、調べ学習及びレポート作成に取り組んだ。学生指導においては、各人とのコミュニケーションを密に図り、進捗状況に応じた個別指導を心がけた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会福祉学会	正会員 (2014年6月～現在に至る) ・九州地域部会事務局・事務局員 (2018年6月～2022年6月迄)	2014年6月～現在に至る
日本地域福祉学会	正会員 (2019年6月～現在に至る)	2019年6月～現在に至る
日本ソーシャルワーク学会	正会員 (2014年7月～現在に至る)	2014年7月～現在に至る
日本学校ソーシャルワーク学会	正会員 (2012年5月～現在に至る)	2012年5月～現在に至る

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
(シンポジウム) 「熊本地震の被災状況下における研究活動を振り返る - 私が体験した研究継続上の苦悩・課題と研究を止めないための工夫 -」	単 独 (シンポジ スト)	2022年10 月	日本社会福祉学会 第 70回秋季大会 スター トアップ・シンポジウ ム、口頭発表(会場：関 西福祉科学大学)	「研究を止(と)めない～様々な 危機をどう乗り越えるのか～」を テーマに、熊本地震(自然災害) の影響下における研究遂行する ための工夫や課題について個人 的体験をもとに報告した。主に① 日常生活に関する危機的状況、② 就労に関する危機的状況、③研究 活動に関する危機的状況につい て報告した。新型コロナウイルス 感染症及び自然災害等の影響下 においても研究を止めないため の課題や工夫について他3名のシ ンポジストと共に協議した。(20 23年) ※査読有 ※ 日本社会福祉学会 第70回秋 季大会 抄録集 (pp. 61～63)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地域包括ケアシステム推進下における介護系NPOの役割	日本学術振興会	研究代表者(○本郷秀和)、分担研究者(鬼崎信好、村山浩一郎、松岡佐智、畑香理、田中将太、島崎剛)、梶原浩介	4,420,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
地域共生社会の推進に伴う、制度の狭間の問題に対するソーシャルワーカーの役割と技能	日本学術振興会	2,210,000円	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
熊本県精神保健福祉士協会 SSW委員会	調査研究班	2014年11月～現在に至る
日本精神保健福祉士協会	会員	2014年5月～現在に至る
福岡県精神保健福祉士協会	会員	2019年12月～現在に至る
実習指導委員会	委員	2021年4月～現在に至る
北九州地区精神保健福祉士協会	会員	2019年12月～現在に至る
北九州市民カレッジ企画運営委員	企画運営委員	2019年12月～現在に至る
北九州市福祉事業団 福祉サービス苦情解決体制・第三者合同委員会	専門委員	2021年4月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター 運営委員会	運営委員	2021年4月～現在に至る
NPO 法人障害者支援要会 カフェ・ラポール	監事	2021年6月～現在に至る
北九州市発達支援センターつばさ・ケース検討会	アドバイザー	2021年7月～現在に至る
宮若市地域福祉計画策定委員会	会長	2022年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

学生アドバイザー 2019年4月 ～ 現在に至る

地域連携室 2020年4月 ～ 現在に至る

・室員 2020年4月 ～ 現在に至る

国際交流委員会 2021年4月 ～ 現在に至る

・委員 2021年4月 ～ 現在に至る

ハラスメント相談員 2021年4月 ～ 現在に至る

学生総合支援室 2022年4月 ～ 現在に至る

・アドバイザー 2022年4月 ～ 現在に至る

教職員懇談会 2022年4月 ～ 2023年3月迄

・委員 2022年4月 ～ 2023年3月迄